

# ディカーニカ近郷夜話 後篇

VECHERA NA HUTORE BLIZ DIKANIKI

はしがき

青空文庫



さていよいよ二冊目の本を御覧に入れる、いや二冊目といふよりは寧ろ最後の本といった方がよい！ ありやうは、これも公おほやけにするのは全く不本意なことなんで。実際、もういい加減に身の程を知つてもいい頃ぢや。実を言へば、そろそろ村でも、わしのことを哂わら笑ひだしをつたのぢや。その言ひ草が、ほいほい、老爺ぢいさんもすつかり耄ぼけてしまつたよ。あの高齡としをからげて、こんな子供だましみたいな物を拵とらへて御恐悦なんだからなあ！ と、かうぢや。まことに尤もな話で、もう疾とつくに樂隱居でもして落ちついてゐるのがほんたうぢやて。ひよつとすると、親愛なる読者諸君は、わしがこんなことを言つてわざと老としより人ぶつてゐるのだ

とお思ひかも知れんが、どうしてどうして、口に一本の歯も無くなつた今日、何を好んで老人ぶることがあらう！ この頃では何か柔かいものにもあたれば、まあ、どうにか食へもするが、ちよつと固いものにもぶつかつたら、てんで噛み切ることも出来ませんのぢや。兎も角、またこの本を一冊お目にかける！ が、どうか頭てんからこきおろしたりはしないで頂き度い！ 別れ際に悪口を浴びせるのは宜しくないことぢや、殊に何時また会へるやら知る由もない相手にむかつては尚更のことぢや。さて、この本では、ひとりフオマ・グリゴリーエヰツチを除けば、殆んど諸君にとつて新顔の話し手ばかりの物語を御披露する次第ぢや。あの、よほどの才子や莫斯科人の大部分にもちよつと呑みこみにくいや

うな気障な言葉づかひで話をした、例の豌豆いろの長カフターン 袷ツを著  
た貴公子先生からはもう、すっかり音沙汰がない。いつかみんな  
を相手に喧嘩をして以来、てんでわれわれの村へ寄りつかなくな  
つたのぢや。さうさう、あれはまだお話しなかつたかな？ いや、  
とても滑稽な出来事がありましたのさ。去年の、なんでも夏頃の  
こと、さうぢや、ちやうどわしの名附日の祝ひの当日だつたと思  
ふが、うちへお客がぞろぞろやつて来たのぢや……（茲で一言申  
しあげておかねばならないのは、有難いことに、土地ところの衆が忘れ  
もせず、この老人のわしをちやんと訪ねて呉れることなんで。わ  
しが自分で名附日の憶えがあるやうになつてから、もう五十年か  
らになるが、わしの年齢としが正確に幾つなのか、それは当のわしも、

うちの婆さんも、はつきりしたことは申しあげ兼ねる。何れにしても七十歳間近にはなる筈ぢや。デイカーニカの祭司ハラムピイ師に訊けばわしの生年月日もわかるのぢやが、惜しいことに、もう五十年も前にこの人は亡くなつてしまつたのぢや。―それは扱、お客に来てくれた連中は、ザハール・キリーロキツチ・チュホプペーニコだの、ステパン・イワーノキツチ・クーロチカだの、タラス・イワーノキツチ・スマチニエーニキイだの、陪審官のハラムピイ・キリーロキツチ・フロースタだのといつた面々でな、それから、まだある……ええと、名前をすっかり胴忘れてしまつたが……オーシツプ……オーシツプと……、ええつ、ほんとにミルゴロドちゆうに誰知らぬ者もない人物なのぢやが！ それに、

その男は話をするときに、いつも先づ、パチパチと指を鳴らしてから、両手を腰にかふ癖があるのぢやが……。いや、その男のことは、まあ、どうでもいい！ またの時、いつか思ひ出せるぢやらう。ところで諸君にお馴染の、くだんの貴公子先生もポルタワからやつて来た。フオマ・グリゴリーエキツチは勘定に入れるまでもない、この人はもう身内の者も同然なのぢやから。さて一同、大いに話はずんだものぢや。（茲でまた一言お断りして置かねばならないのは、つひぞ我々の口の端に、取るに足らないやうな話題がのぼつた例しのないことで、元来わしは礼節に適つた、所謂、面白くて教訓ためになるやうな話がいつも好きなのぢや。）——

で、その折には林檎の塩漬の仕方について話はずんでゐたのぢ

や。宅の婆うちさんが、それには先づ前もつて林檎をよく洗ひ浄めて、  
 次ぎに\*濁麦酒クワスに浸けて、それから今度は云々といつた塩梅に、  
 語り進めようとした時ぢや。『そんなことをして何になるもので  
 すか!』と、例のポルタワの先生め、豌豆カフタンいろの長 杉の胸へ  
 片手を突込んで、のつしのつしと歩調あしどりも重々しく部屋を歩きま  
 はりながら、婆さんの話の腰を折りをつたのぢや。『それぢやあ、  
 なんにもなりませんよ! 何よりも先づ第一に、水金鳳きつりぶねの葉を  
 交たがひちがひ互たがひちがひに撒き込むことですよ、さうしてから初めてその……。』  
 さあ、ひとつ読者諸子に伺つて見たいものぢやて、つひぞ何時か、  
 林檎の中へ水金鳳きつりぶねの葉を撒き込むなどといふ話を、お聴きにな  
 った例しがありますか、ひとつ公平な御意見を伺ひたいもので!



なるほど、すぐりの葉とか、ぶたごやしとか、つめくさなどは入れもするぢやらうが、水きつりぶね金鳳なんちふ代物を漬け込むなどは……いや、わしはてんでそんなことは聴いたこともありませんわい。もう、かういふことにかけては、うちの婆さん以上に詳しい人は先づないぢやらうて。さあ、ところでどうだらう！ わしは態々この男をば一ひとかど角の人間なみに、そつと傍らへ引つぱり寄せてな、『これさ、マカール・ナザール口キツチ、お前さんとしたことが、そんなことを言つて混ぜつ返しなさんなよ！ お前さんは立派な御仁で、一度などは知事とひとつ卓子で食事をしたこともあると、御自分でも言つておいでぢやないか。ね、そんな変てこなことを言ふと人に笑はれますぜ、ほんとに！』と、かういつ

て注意してやつたものぢや。ところで、諸君は、これに対して彼がなんと答へたと思し召す？ 何ひと言、返辞をするどころか！

ただペツと床へ唾を吐くと同時に、帽子を掴んで、誰一人に向つて暇乞を述べるでも、会釈ひとつするでもなく、そと戸外へ飛びだしてしまつたのぢや。ただ我々の耳には、馬車が鈴を鳴らしながら門の方へ出てゆく音が聞えただけぢや。馬車に乗ると、その儘たち去つてしまつたといふ訳でな。それが結局こちとらには仕合せといふものぢや！ なあに、こちとらには、あんなお客に用はないぢやて！ いや、まつたく世の中に名士つてえ奴くらゐ始末の悪いものはない。あの男の叔父とかが、なんでも警視か何かを勤めてゐたことがあるつてえのでな、それで先生、いやに

お高くとまつてゐくさるのぢや。警視といへば世の中にこれほど偉いものはない高位高官だとも思つてゐるのかい？ お蔭さまで、警視なんかより、もつともつと偉いものが幾らでもありませぬ。あね。いんにや、わしにはかういふ名士つてえ奴がどうも気に食はん。たとへばあのフォマ・グリゴリーエキツチを御覧じろ、どれだけ有名な人といふでもないけれど、あの人をよく見ると、顔に何処となく、どつしりした威厳が具はつてをる——あの人、なんでもない普通なみの嗅煙草を嗅ぎ始める様子を見ても、自然と頭が下るやうな人徳といふものが窺はれるのぢや。会堂であの人が頌歌席に立つて讚美歌を唱ひ出すといふと、なんとも名状しがたからだい感動に打たれてしまふ！ まるで、軀からだぢゆうがとろけてしまふ

やうな気持ちや！……ところが、あの……いや、彼奴あいつのことなんざあ、どうだつていい！ 奴さん、自分の話が入らなくつちやあ、二進も三進もゆくまいと自惚れてをるのぢやらう。ところが、ちやんとこのとほり一冊の本にさへ纏まつたぢやごわせんかい。

濁麦酒クワス

ライ麦の麦芽を用ゐて醸造した一種の家庭飲料

で、ビールに似た軽い酒精分を含み、露西亞人の一般に愛飲するもの。

さて、わしは慥か、この本の中へ自分自身の噺もさし加へるやうなお約束をしておいた筈ぢや。實際そのつもりでゐたのぢやが、わしの噺には少くともこんな本の三冊分くらゐの紙面が要るつてえことが分つたんでな。いつそ別冊にして発行しようかとも思つ

たけれど、また思ひ直しましたのぢや。わしはちやんと知つとる——諸君がこの老人を哂笑わらひ出されるつてえことをな。いやもうそれは真平御免ぢや！ では御機嫌よう！ もう当分、或はもうこれつきり永久に、お目にはかかりますまい。それがどうしたといふのぢや？ どだい諸君にとつては、わしなど初めつからこの世にゐなくつたつて同じことぢやないか。一年、二年と時の経つうちには——諸君のうち誰ひとりとして、後年この老蜜蜂飼ルードウイ・パニコーのことなど、思ひ出したり悲しんだりして下さる方はあるまいて。

——一八三二年——



## 青空文庫情報

底本：「デイカーニカ近郷夜話 後篇」岩波文庫、岩波書店

1937（昭和12）年9月15日第1刷発行

1994（平成6）年10月6日第7刷発行

※「旧字、旧仮名で書かれた作品を、現代表記にあらためる際の作業指針」に基づいて、底本の表記をあらためました。

※底本の中扉には「デイカーニカ近郷夜話 後篇」の表記の左下に「蜜蜂飼ルードウイ・パニコー著はすところの物語集」と小書きされています。

入力：oterudon

校正：伊藤時也

2009年8月6日作成

2014年6月15日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。



# ディカーニカ近郷夜話 後篇

## VECHERA NA HUTORE BLIZ DIKANIKI

2020年 7月13日 初版

### 奥 付

発行 青空文庫

著者 はしがき

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>